

資 料

## 甲南女子大学の助産師教育課程に関するニーズ

川 村 千恵子・池 内 佳 子

Needs assessment of midwifery education programs in Konan Women's University

KAWAMURA Chieko and IKEUCHI Keiko

**抄録：**甲南女子大学での助産師教育をどのような教育課程で行っていくのがよいのか検討するために、助産師教育に関するニーズ調査を行った。調査対象は、本学看護学科学生、看護学科オープンキャンパスの来場者、本学看護学科保証人、産科病棟を有する近隣実習施設の看護師とし、回収数は906票であった。対象は助産師への関心が高く、できれば資格の取得をしたいと考えていた。教育課程では大学（助産コース）のニーズが高く、教育内容（専門性、幅広い教養）、経済面、時間的側面などがその理由として挙げた。しかしながら看護師と助産師の学習両立の厳しさや、時間の少なさから、看護師に専念した後に助産師教育を受けるといった現実的な考え方を持つ在学生や保証人もみられた。調査結果より、本学では大学教育（助産コース）のニーズが高いと考え、現行の助産師教育課程でより内容を充実させていく方向で取り組んでいくことを導いた。

### I. はじめに

わが国において、助産師になるための養成機関は、2年間で学ぶ大学院、1年間で学ぶ大学専攻科・別科、短大専攻科、専修学校などがある。大学では4年間のなかで助産コースを選択して助産師の国家試験受験資格を取得することができる。看護系大学の増加、大学院の増加に伴い、助産師養成校<sup>1)</sup>が増え、国家試験受験者も増加の傾向にある。

甲南女子大学（以下、本学）では、現在大学の4年間のなかで助産師教育を行っているが、社会において助産師に期待されるニーズは高くなり、求められる知識や技術も高度になってきている。助産師は快適で安全な妊娠・出産のみならず、家族を含めた子育て支援や女性の生涯にわたる健康を支援する役割など多岐にわたり、自律した活動が求められている<sup>2)</sup>。充実した助産師教育を行うためには時間が必要であるという状況から、平成24年度より新カリキュラムへ改正され、1年以上指定された学科を修めることが定められてい

る<sup>3)</sup>。本学では看護学研究科も開設されたが、今後、本学での助産師教育をどのような教育課程で行っていくのがよいのか検討するために、助産師教育課程に関するニーズ調査を行った。なお、本調査は看護学研究科・看護学科第二次中期計画事業の一部として行ったものである。

### II. 調査方法

#### 1. 調査対象

調査対象は、本学看護学科学生、看護学科オープンキャンパスの来場者、本学看護学科保証人、産科病棟を有する近隣実習施設の看護師とした。配布総数は1,302票、回収数は906票、回収率69.6%であった。対象者数の内訳は表1に示す通りである。（表1）

表1 調査対象者

	配布数	回収数	(回収率)
本学看護学科学生	405	378	(93.3%)
看護学科オープンキャンパス来場者	442	366	(82.8%)
本学看護学科保証人	405	124	(30.6%)
産科病棟を有する近隣実習施設の看護師	50	38	(76.0%)

## 2. 調査期間

平成24年6月10日～平成25年4月22日

## 3. 調査方法

本学看護学科学生（以下、学生）は各学年の教務オリエンテーション時に配布し、その場で記入、回収した。オープンキャンパス来場者（以下、OC）については、体験授業時に説明、配布し、その場で記入、ボックスにて回収を行った。本学看護学科保証人（以下、保証人）に関しては、郵送による調査票の配布ならびに返信を持って回収した。

産科病棟を有する近隣実習施設の看護師に対する調査は、看護部長へ説明し、看護部から産科病棟あるいは小児科病棟に勤務する看護師への配布を依頼した。調査票は郵送による回収とした。

## 4. 倫理的配慮

調査への参加・不参加による教育や入試への不利益は一切ないこと、調査は教育課程の検討以外の目的では使用しないこと、匿名性の確保について書面で説明し、調査協力への同意は調査票の回収をもって行った。

## 5. 調査内容

調査内容は1)対象者の属性、2)助産師教育についての考えの2点とした。

## 6. 分析方法

データ集計はIBM SPSS Statistics19を用いて

単純集計を行った。

## Ⅲ. 結果

### 1. 対象者の属性

表2 対象の属性

	度数	(%)	
オープンキャンパス	高校1年生	28	(3.1)
	高校2年生	97	(10.8)
	高校3年生	158	(17.6)
	既卒	4	(0.4)
	保護者	72	(8.0)
	受験業者	1	(0.1)
	OCその他	3	(0.3)
大学生	大学1年生	87	(9.7)
	大学2年生	104	(11.6)
	大学3年生	85	(9.5)
	大学4年生	97	(10.8)
保証人	124	(13.8)	
看護師	38	(4.2)	
合計	898	(100.0)	

表3 オープンキャンパス来場者の居住地

	度数	(%)
兵庫県	214	(57.5)
大阪府	114	(30.6)
京都府	11	(3.0)
奈良県	8	(2.2)
和歌山県	1	(0.3)
その他	16	(4.3)
無回答	2	(0.5)
合計	372	(100.0)

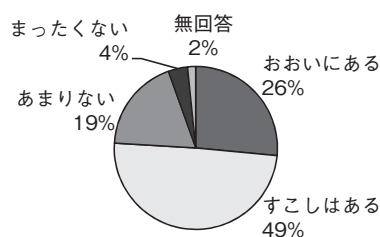


図1-1 助産師への興味(オープンキャンパス) n=366

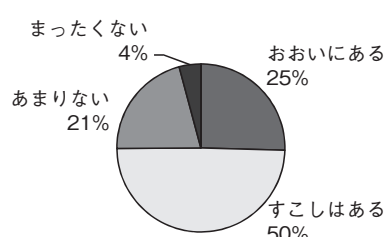


図1-1-1 助産師への興味(OC生徒) n=287

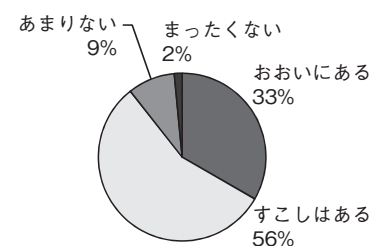


図1-1-2 助産師への興味(OC保護者) n=72

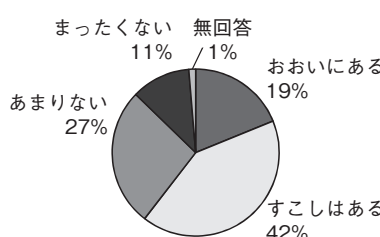


図1-2 助産師への興味(在学生) n=378

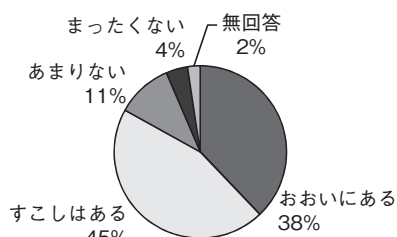


図1-3 助産師への興味(保証人) n=124

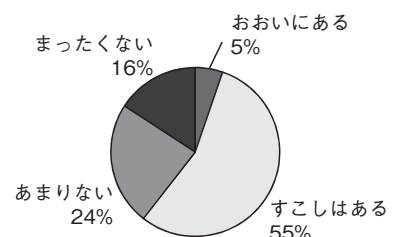


図1-4 助産師への興味(看護師) n=38

## 2. 助産師教育についての考え

### 1) 助産師への興味

助産師への興味は「おおいにある」「すこしはある」が全ての対象で半数を超え、関心の高さが伺えた。特に保護者や保証人の関心が子どもよりも高く、特に在學生と比べて保証人の関心は高いことがわかった。本学のオープンキャンパス来場者や在學生、保証人は助産師への関心が高い人が多く、本学看護学科の特徴であると言

えるだろう。(図1-1~4)

### 2) 助産師の希望

助産師への希望に関しては、生徒、保護者、保証人が3割程度希望するのに対し、在學生は18%と低かった。ここでも在學生と保証人の意識に差があることがわかる。また、看護師の希望は5%と低かった。これらの低さは実現可能性を考えた結果と考えられる。(図2-1~4)

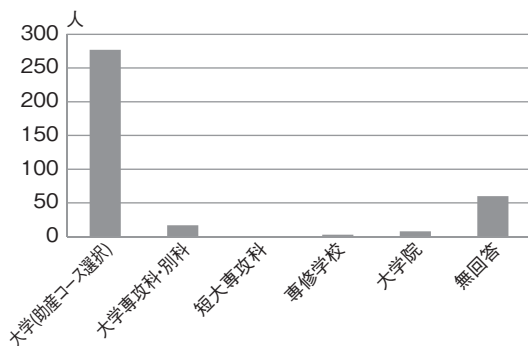
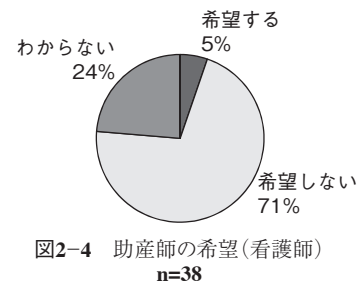
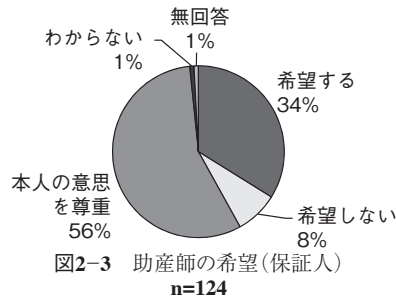
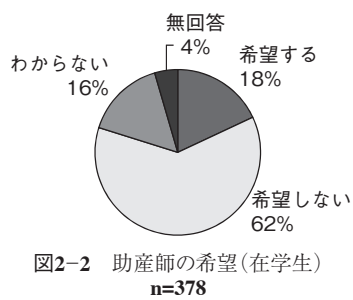
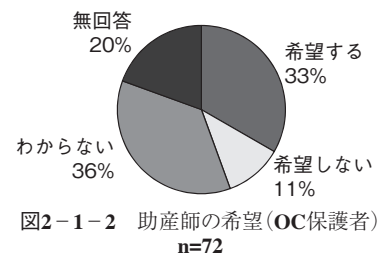
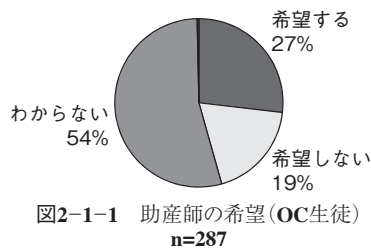
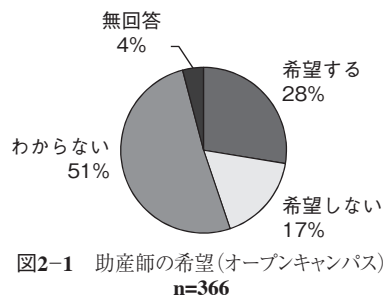


図3-1 望ましいと考える助産師教育課程(オープンキャンパス来場者)

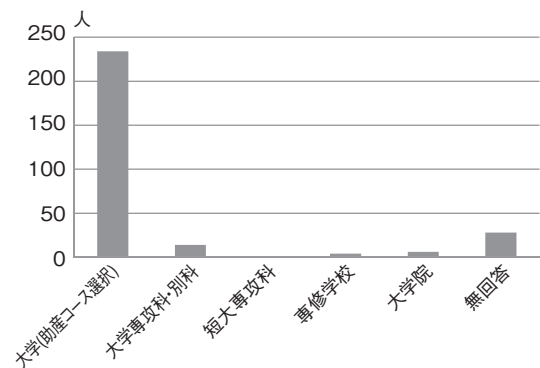


図3-1-1 望ましいと考える助産師教育課程(生徒)

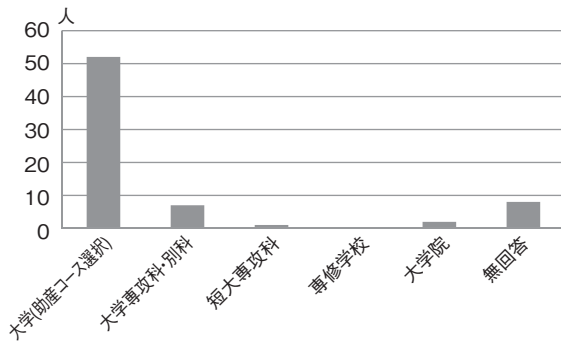


図3-1-2 望ましいと考える助産師教育課程(保護者)

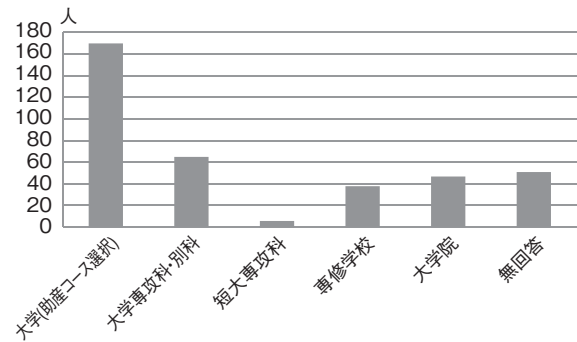


図3-2 望ましいと考える助産師教育課程(在学生)

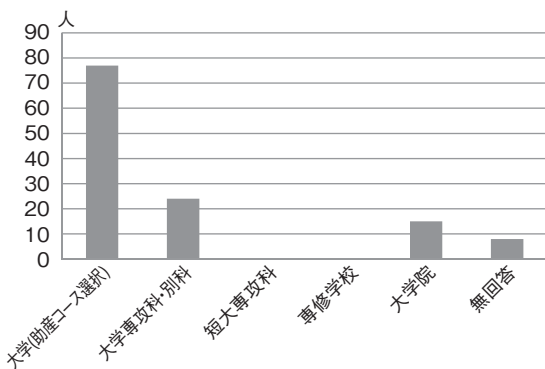


図3-3 望ましいと考える助産師教育課程(保証人)

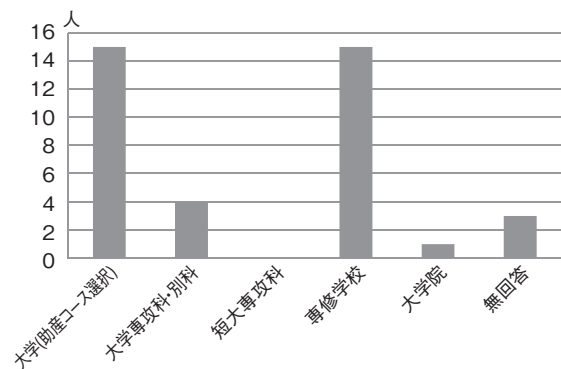


図3-4 望ましいと考える助産学教育課程(看護師)

### 3) 望ましいと考える助産学教育課程

望ましいと考える助産師教育課程では、生徒、保護者、在学生、保証人ともに大学（助産コース選択）が最も多かった。第2位は大学専攻科・別科であった。一方、看護師では大学（助産コース）と専修学校が同数で多かった。保護者、保証人ともに専修学校が0であることから、学歴へのこだわりが見うけられた。（図3-1~4）

表4から望ましいと考える助産師教育課程として大学（助産コース）を選んだ理由は、大学で学ぶことに意義がある（専門的に学べる、幅広く学べるなど）や経済的であることが、全ての対象群から挙がっていた。早く就職できるなど4年間で習得できるメリットや大学の助産コースを入学後学びながら進路選択ができる、すなわちキャリアデザインが可能であること、すでに卒業生が臨床で活躍していることから実際に資格を取って働いているモデルがいるということも挙がっていた。

大学専攻科・別科を選んだ理由は、専門的に学べる、4年間では時間が足りない、カリキュラムに無理がないという意見が全ての対象群から挙がっていた。

短大専攻科を選んだ理由は、看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき、集中して学べ

るが挙がっていた。

専修学校を選んだ理由は、集中して学べるから、実習で多くの経験が積めるなどであった。

大学院を選んだ理由は高い専門性が挙がっている一方、4年間の教育のデメリットとして時間の不足や技術習得不足などが挙げられていた。

経済面、学ぶ期間、学びの内容、進路選択が可能などの要因が挙がっていた。大学（助産コース）以外のコースでは、大学でのカリキュラムや時間の少なさなど大学教育の否定的要因を理由としていた。（表4）

### 4) 希望する助産師教育課程

希望する助産師教育課程も、望ましいと考える助産師教育課程同様、生徒、保護者、在学生、保証人とも大学（助産コース選択）が最も多く、第2位は大学専攻科・別科であった。看護師では、専修学校が最も多く、大学（助産コース選択）と逆転していた。大学院は在学生や保証人が第3位となっていたが、生徒、保護者、看護師は少数であった。（図4-1~4）

表5に示すとおり、希望する助産師教育課程として大学（助産コース）を選んだ理由は、経済的（学費）が最も多く、オープンキャンパス来場者（生徒、保護者）、在学生、保証人の対象群で挙がっていた。（表5）

表4 望ましい助産師教育課程とその理由

	オープンキャンパス来場者	在学生	保証人	看護師
大学	<p>大学で学ぶことに意義がある（専門的学び、幅広くしっかり学べる） 経済的 4年間で習得できるメリット（早く働ける） 学びながら進路選択ができる 大学の環境がよい 実習や就職がしっかりしてそう 看護師と助産師の両方の資格が欲しい 助産師も大学卒業が必要 大学卒業の方が給料が良さそう 案だと思おうから</p>	<p>大学で学ぶことに意義がある（専門的学び、幅広くしっかり学べる） 経済的 4年間で習得できるメリット（早く働ける） 学びながら進路選択ができる</p>	<p>大学で学ぶことに意義がある（専門的学び、幅広くしっかり学べる） 経済的 4年間で習得できるメリット（早く働ける） 学びながら進路選択ができる</p>	<p>大学で学ぶことに意義がある（専門的学び、幅広くしっかり学べる） 経済的</p>
大学（助産科・入学選択）	<p>実際に資格をとって働いている人がいる 母性看護との関係なども一緒に学べる 資格をとるのに時間がかかると助産師が減る 学ぶ単位を増やしてもまきりがなく現場に出るからの研修を充実させる方が先と思う</p>	<p>開校当初の学生ができていくから</p>	<p>開校当初の学生ができていくから</p>	<p>実習に来ている助産コースの学生の頑張っている姿から</p>
短大専攻科・別科	<p>専門的に学べる 4年間で時間がない、カリキュラムに無理がない しっかりとした意思が必要 自分のお産が大変だったので助産師は必要と思う</p>	<p>専門的に学べる 4年間で時間がない、カリキュラムに無理がない</p>	<p>専門的に学べる 4年間で時間がない、カリキュラムに無理がない</p>	<p>専門的に学べる 4年間で時間がない、カリキュラムに無理がない</p>
短大専攻科	<p>看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき 1年間助産師の国家試験に専念できる 集中して学べる 実習が多く経験を積める</p>	<p>看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき 助産師になりたいたい人が集まって行動することで頑張れる 大学では習得したくても成績上位に限られるため</p>	<p>看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき、 国家試験3つは厳しい 大学では習得したくても成績上位に限られるため 大学での教育課程が望ましい</p>	<p>なし</p>
専修学校	<p>看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき 1年間助産師の国家試験に専念できる 集中して学べる 実習が多く経験を積める</p>	<p>本当に学びたい人が集中して学べる 集中して学べる 自分にあう学校をしっかりと選ぶ 早く働きたい</p>	<p>なし 集中して学べる 実習が多く経験を積める</p>	<p>なし 集中して学べる 実習が多く経験を積める 専門学校出身だと大学に入るの難しい 1年間で社会復帰しやすい</p>
大学院	<p>4年間の教育のデメリット（時間の不足、技術習得） 高い専門性 看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき、 国家試験3つは厳しい</p>	<p>4年間の教育のデメリット（時間の不足、技術習得、 高い専門性） 看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき、 国家試験3つは厳しい</p>	<p>4年間の教育のデメリット（時間の不足、技術習得、 高い専門性） 看護師の資格を取ってから助産師の勉強をすべき、 国家試験3つは厳しい</p>	<p>1年間の助産師教育では身体的・心理的負担が大きいため</p>



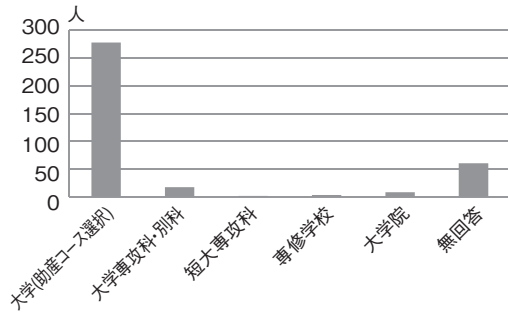


図4-1 希望する助産師教育課程  
(オープンキャンパス来場者)

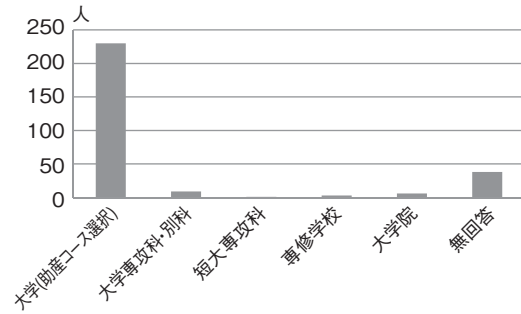


図4-1-1 希望する助産師教育課程(生徒)

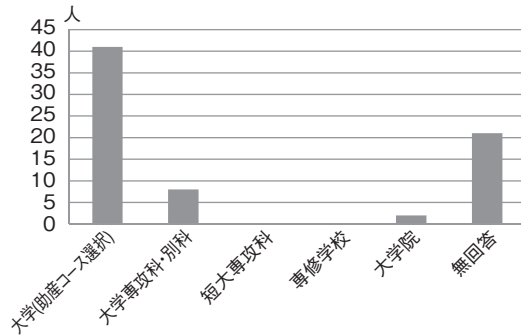


図4-1-2 希望する助産師教育課程(保護者)

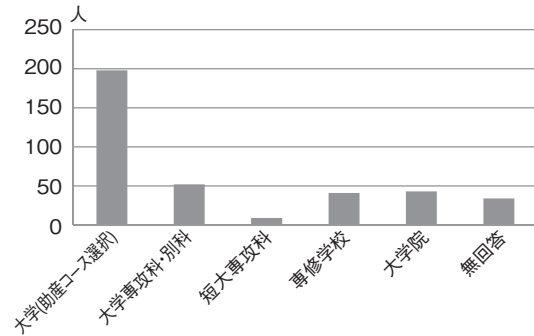


図4-2 希望する助産師教育課程(在学生)

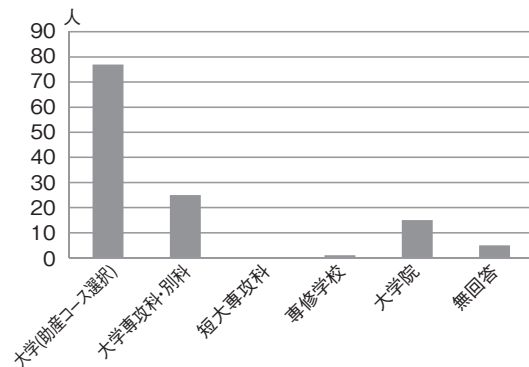


図4-3 希望する助産師教育課程(保証人)

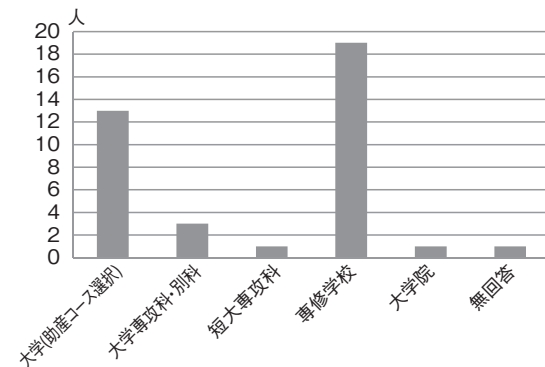


図4-4 希望する助産師教育課程(看護師)

大学で学ぶことに意義がある(専門的学び、幅広くしっかり学べる)、学びながら進路選択ができる、最短での資格取得、本学を選んだ理由などが挙がっていた。看護師の回答は得られなかった。

大学専攻科・別科を選んだ理由は、時間をかけて身につける、専門的に幅広く学ぶ、大学より入りやすいなどが挙がっていた。

短大専攻科を選んだ理由は、看護師で短大か大学卒の学歴が欲しいと挙がっていた。

専修学校を選んだ理由は、より専門的に深く学べる、看護師として十分知識・技術を身につ

けてから学ぶ、確実に資格を取得できる、本学で養成できる人数が少ないからなどが在学生から挙がっていた。また、看護師では、より専門的に深く学べる、経済的理由、専門学校卒業のため入学しやすいなどが挙がっていた。

大学院を選んだ理由では、学歴、大学では看護に専念したい、時間の余裕が欲しい、同じ大学で学びたい、より専門性・人間性を身につけるため、保健師と養護教諭を取ると助産師を受けられないためなどが挙がっていた。看護師からの回答は得られなかった。

表5 希望する助産師教育課程とその理由

	オープンキャンパス来場者	在学生	保証人	看護師
大学 (助産コース選択)	<p>経済的(学費) 学びながら進路選択ができる 大学で学ぶことに意義がある(専門的学び、幅広くしっかり学べる) キャンパスライフを楽しみたい 最短で資格を取りたい 興味がある 大学卒業の方が給料がよい 助産師の資格だけでは不満</p>	<p>経済的(学費) 学びながら進路選択ができる 大学で学ぶことに意義がある(幅広くしっかり学べる) 最短で資格を取りたい 南女に入学した理由 進学したくない 年齢的に余裕がない 早く臨床に出たい 院に行くなら一度就職してからになりそうだから</p>	<p>経済的(学費) 南女に入学した理由 一生勉強を続ける職業のため資格取得後のスキルアップができればよい 時間をかけて身につける</p>	<p>なし</p>
大学専攻科・別科	<p>なし</p>	<p>時間をかけて身につける 専門的に幅広く学ぶ 大学より入りやすい 今、助産コースだがいいっぱいいっぱい 大学を卒業して基礎と経験を積んでから助産師を取りたい</p>	<p>なし 別科の方が希望者が増えるのではないかと 看護師と助産師の両方は難しい 卒業後2年(大学院)は長いと思うため 学生のニーズに応じたより明確な助産師養成が必要 なし</p>	<p>なし 短大か大学卒が欲しい</p>
短大専攻科	<p>なし</p>	<p>早く助産師になれる</p>	<p>なし</p>	<p>より専門的に深く学べる</p>
専修学校	<p>なし</p>	<p>より専門的に深く学べる 看護師として十分知識、技術を身につけてから学ぶ 早く働きたい 確実に資格を取得できる 看護師との勉強の両立ができないため 本学で習得できる人数が少ないから</p>	<p>なし</p>	<p>経済的理由 専門学校卒業のため入学しやすい 大学卒は知識はあっても技術に欠ける人が多い なし</p>
大学院	<p>プラス1年なら2年で院卒業の方がいいから 気持ちを切り替えてできそう</p>	<p>学歴的にかっこいい 時間の余裕が欲しい 大学では看護に専念したい 保健師と兼職教諭を取ると助産師を受けられないため 同じ大学の方が慣れ親しみがある</p>	<p>4年間ではハードなスケジュールである 看護を学んだ大学の延長で学んでほしい 精神的にもう少し大人になってから医療従事者にならなりたい より高い専門性・人間性を身につけるため</p>	<p>なし</p>

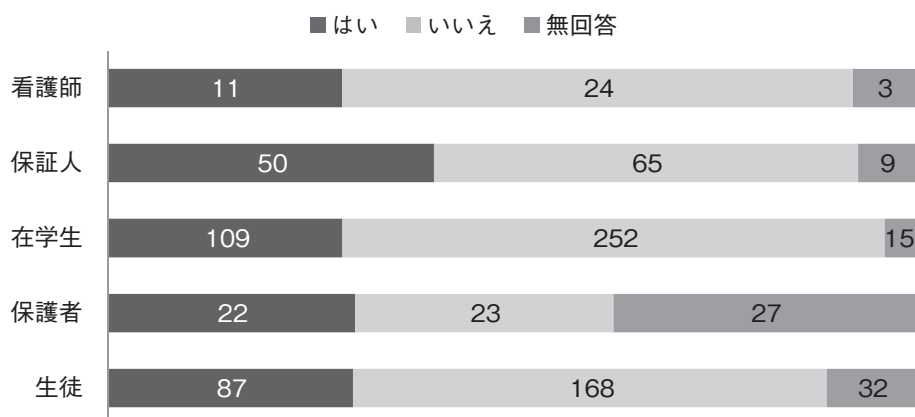


図5 大学院の希望

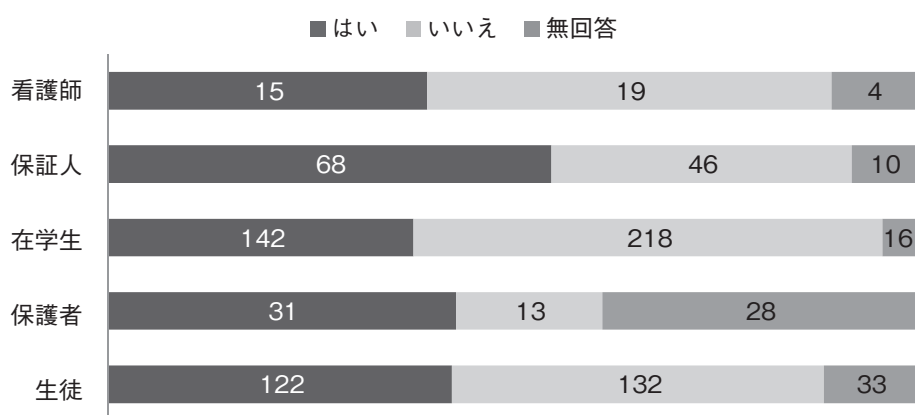


図6 専攻科の希望

## 5) 本学の大学院の希望

3～4割の人が本学に大学院が併設されれば希望すると回答している。特に保証人は高い割合となっている。(図5)

## 6) 本学の専攻科の希望

本学に専攻科が併設された場合の希望は、3～5割となっているが、大学院より実数はいずれの対象群においても増えている。大学院と専攻科のニーズでは、専攻科の方が高いことが窺えた。(図6)

## 7) 助産師教育についての意見 (自由回答)

助産師養成数を増やすために教育の場を設けて欲しい、狭き門の解消が挙がっていた。

助産師教育の内容・質については、カリキュラムについての意見や実習時間を増やすこと、実習先の確保等、教育へ還元すべき意見を得ることができた。

経済的な問題、大学から助産師教育を外出しすることの時間の問題、入試広報時の助産学教育の丁寧な説明を求める声、現状が本学の売りである

こと、卒業生が取得できるシステムの要望など、様々な意見を頂戴することができた。(表6)

## IV. ま と め

本学の入学を視野に入れているオープンキャンパス来場者、ならびに在学生、保証人は、助産師への関心が高く、できれば資格の取得をしたいと考えている。大学(助産コース)で助産師教育を受けたいというニーズは高く、教育内容(専門性、幅広い教養)、経済面、時間的側面などの理由を挙げている。しかしながら現実には、4年間で看護師と助産師の学習を両立することは厳しく、時間が少ないと感じている人も多く、看護師に専念してから、助産師教育を受けるといった現実的な考え方を持つ在学生や保証人もいる。一方では、すでに活躍している卒業生がいることで、大学教育として成り立つという考えも窺えた。大学専攻科・別科、短大専攻科、専修学校、大学院のいずれも看護師取得後に集中



表6 自由回答

	OC	在学生	保証人	看護師
助産師養成数	教育の場を増やす			
	助産師を増やす	助産師を増やす		
	みんな平等に資格を取りたい	なりたいが狭き門で無理		
		定員を増やしてほしい		
助産師教育の内容・質	質を高める			
	専門性を高める	1年次(2年次)からもっと助産師について学びたい		
		養護教諭、保健師コースに行きたいので資格はとれないが、興味はあるので勉強したい		
		看護との両立が難しい		
		助産の授業が少ない		
				大卒は臨床経験が少なすぎる
				大学でもできるだけ実習で経験し、実習単位を習得して欲しい
				一般的なことができない学生が増えている。看護の「志」を持って実習に来てほしい
			長年経験しないと難しい	
			助産の実習受け入れ先が難しい	
			学習内容やレポート負担が大きい	
			助産師を取得させたい親の思いが本人に伝わらず、学校から意義を指導して欲しかった	
			看護科の教員の質をあげてほしい(常識のない教員がいるようで失望している)	
			興味あることしか手につけない幼さがあるので、色々な経験や活躍している方の講演やご指導で学生時代にしか学べない取り組みを希望する	
			18～22歳という素晴らしい時代に学びたい人が学べる場を希望する	
			女子大として細やかな心遣いと思いやりを時間をかけて学んでほしい	
			助産を志す学生を明確にし、一層充実した専門教育を希望する	
経済			学費の問題	
時間			院では時間がかかりすぎる	
			卒後1～2年となると益々晩婚化を招くかも	
興味	興味がある			
	興味がさらにもてた			
		興味はあるが自信はない		
		あまりイメージがわからず興味が持てにくい		
		実習(母性)に行っても興味がなくなってしまう		
		ハードルが高いイメージ		

	OC	在学生	保証人	看護師
自分のこと	将来助産師になりたい 大学で学びたい	難しいので途中でめざすのをやめた	入学当初目指していたが断念したので院を希望する 子どもに余裕がないので残念	
広報		4年間で取得できるのは売りになるが、現実的には厳しい 入学前に人数制限があるなら教えて欲しかった 入学にあたって情報が少なすぎたのでHPで詳しく書いてほしい	南女の強みであり、売りになるのでそのまま 大学のイメージは在校生、卒業生にとってもプラスになる 少子化の中でどれだけのニーズがあるのか疑問	
希望		働きながら学べたらよい このままがよい 院にいけない人もいるのでなくすのは反対	甲南らしい院教育を希望 卒業生が再び取得できるシステムを考えて欲しい	学生は大変そうだが意味あるので頑張ってもらいたい
その他			アンケートに驚いた ニーズだけでなくリスクも増えているのできっちりお知らせしてほしい	

して専門性の高い教育が受けられると考えている一方で、それぞれの特色で望ましいと考えるのではなく、大学教育でできないから（コース選考で入れない、看護師との両立が無理など）という消去法的な考え方が感じられ、大学院教育の本質的な意見はなかった。

以上のことから、本学では大学教育（助産コース）のニーズが高いと考え、現行の助産師教育課程でより充実させていく方向で取り組んでいきたい。また、今回の調査で得た貴重な意見を参考にし、より質の高い教育ができるよう教育方法の工夫や内容の充実を図りながら学生一人一人に丁寧に向き合い、卒業後助産師として社会に認められる人材を育成していきたいと考える。

最後に、調査にご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。

#### 文 献

- 1) 文部科学省：文部科学大臣指定（認定）医療関係技術者養成学校一覧（平成25年5月1日現在）  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/01/20/1336791\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/01/20/1336791_3.pdf) (2014.10.07 アクセス)
- 2) 北川眞理子：助産師教育の現状，助産雑誌，67（8），612-620，2013.
- 3) 厚生労働省：保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について（通知）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kango/1305957.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/1305957.htm) (2014.10.07 アクセス)